自治会町内会情報誌

# まちむら

2021年9月発行（季刊誌）
155

■写真 春夏秋冬　**繁盛の地名と廃校活用での稼ぐ仕組み作り**
兵庫県宍粟市　NPO法人More繁盛

■地域のチカラ　**手づくり提灯で子どもたちに夢と感動を与える**
北海道札幌市手稲区　ていね夏あかり実行委員会

■論　　文　**「よそ者」のパワー／実践的自治会町内会論**

# まちむら 155 目次

## まちむら発見


瀬戸内デニムピクニックシート商品企画開発……岡山県岡山市南区 瀬戸内かわいい部……6

地域住民の外出弱者に対する支援活動……佐賀県佐賀市 久保田まちづくり協議会……8


## 地域のチカラ


手づくり提灯で子どもたちに夢と感動を与える……北海道札幌市手稲区 ていね夏あかり実行委員会……10

ママが笑っていると子どもうれしい！パパ元気！
元気な家族がふえる―もっと元気なまちにしたい
「キラキラ輝くTodaママフェスタ」……埼玉県戸田市 エンジェルすまいる……13

若者が関に戻り、住み続けられるまちへ
―小・中・高校生の郷土愛醸成―……岐阜県関市 特定非営利活動法人せき・まちづくりNPOぶうめらん……16

地域と共に「こども防災キャンプ」……徳島県美馬市 こおざとまちづくり協議会……19

町内会活動を支える女子会……鹿児島県鹿屋市 鹿屋市川東町女子会……22


## 写真 春夏秋冬


繁盛の地名と廃校活用での稼ぐ仕組み作り……兵庫県宍粟市 NPO法人More繁盛……表2

「やってみたい」で始まる親子の居場所づくり……東京都世田谷区 特定非営利活動法人野沢3丁目遊び場づくりの会……25

児童、生徒の健全育成と伝統芸能継承……滋賀県長浜市 冨田人形共遊団……29

廃校を利活用したミニ水族館の運営……高知県室戸市 むろと廃校水族館……53


## 論　文


論　文（第2回）
「よそ者」のパワー：アニメ聖地巡礼現象に見る
新たな地域づくりの可能性
アニメ聖地巡礼とは……北九州市立大学　法学部政策科学科　准教授 森　裕亮……33

実践的自治会町内会論（第2回）
コロナ禍でクリエイトした町内行事新スタイル
ゆうびん・ポストイン・オンライン・ドライブスルー（後編）……北海道苫小牧市　拓勇東町内会副会長 佐藤 一美……37

寄稿
地域住民が主体となった市民自治の取り組み
『湘南地区まちぢから協議会』（後編）～くらしの足を
地域で支える 湘南地区「おでかけワゴン」事業～……神奈川県 茅ヶ崎市総務部市民自治推進課……41

寄稿
ホッとする つながる・ささえあう港地域を拓く（前編）
―住民主体の講座から“志縁団体”3年目のプロセス―……静岡県焼津市 焼津福祉文化共創研究会……46

読者の交流ひろば
自治会運営の意見交換会
～自治会町内会が直面する課題について～……50

表紙／編集後記……52

寄稿

地域住民が主体となった市民自治の取り組み

# 『湘南地区まちぢから協議会』(後編)

## ～くらしの足を地域で支える　湘南地区「おでかけワゴン」事業～

神奈川県　茅ヶ崎市総務部市民自治推進課

### 湘南地区まちぢから協議会の概要

まちぢから協議会は、地域の様々な情報を共有したり、課題を解決したりすることによって、「まち」の「ちから」を発揮し、より良いまちづくりを進めるための地域と行政との協働による住民自治の取り組みです。

平成24年度のモデル事業から進めてきた取り組みの結果、市内の13の区域のうち、12地区で地区まちぢから協議会が設立され、公益の増進に資する活動を行っています。

地区まちぢから協議会の特徴としては、地区内の全自治会を中心に地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会などの各種団体が参画し、さらに個人が部会活動や公募委員として活動に参加することによって、地域の誰もが当事者として関わることができる仕組みとなっています。

さらに、市の条例に定められた要件に合致した地区まちぢから協議会に対し、市長が認定することによって、市職員が地域担当職員として助言、情報の提供を行い、助成金の交付やその他の地域における公益を増進するための活動に資する支援を行うこととしています。

市内12地区で設立されている地区まちぢから協議会のうち、湘南地区まちぢから協議会は、地域が主体となって、行政だけでなく、企業・NPO法人等と連携して地域課題を解決する手法を見出し、先進的な事業実施を行っています。

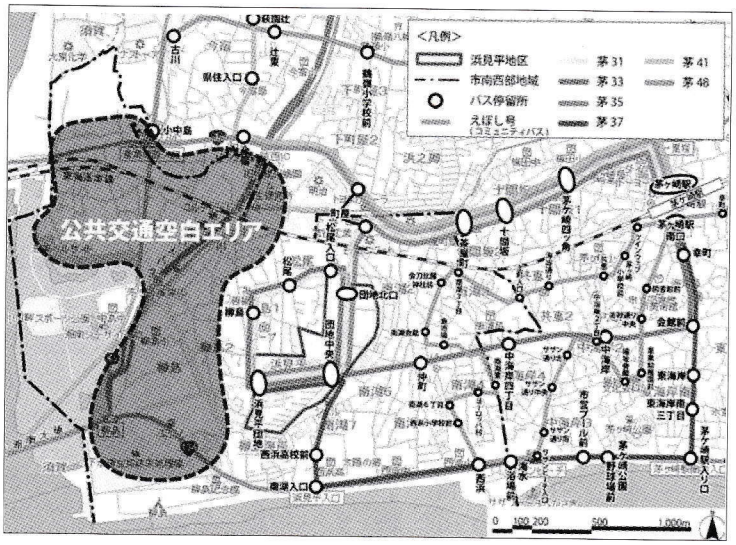
このことから、茅ヶ崎市の取り組みの代表事例として、全国の地域活動実務者の皆様へこの活動を知っていただきたく、後編では様々な事業や取り組みのうち、くらしの足を地域で支える「おでかけワゴン」事業にスポットを当て、取り組み概要を紹介いたします。

湘南地区は、市内の最南西部に位置し、海や豊かな自然環境が残された「湘南」という名にふさわしいイメージの地区です。一方で、この湘南地区は、現在、市内の中で最もダイナミックに街並みが変容している地域でもあり、圏央道のインター開設、柳島スポーツ公園の開園、浜見平団地の建替えや商業施設であるBRANCH茅ヶ崎の

おでかけワゴンのイラスト

建設、そして、2025年7月には、道の駅がオープンする計画となっているなど、市内南西部の拠点として位置づけられています。

湘南地区まちぢから協議会の構成としては、八つの自治会と各種団体、団体のOBなどの推薦委員、公募委員の21名によって、毎月1回の役員会、運営委員会のほか六つの部会活動などにより、課題を共有し、様々な視点から事業の展開に向けた協議を進めています。




茅ヶ崎市の湘南地区の中の公共交通空白エリア

## 取組の背景～なぜ「おでかけワゴン」が必要なのか？

長年、当地区の課題でもあった中島地域を中心とした公共交通空白地問題（バス路線）について、過去、数年にわたり、行政を交え公共交通機関とも調整をしましたが、課題が多く実現化は困難な状況となっていました。

そこで、地域住民が自らの力で解決する方法を見出し、市民が主体となった市民自治の取り組みを推進することによって、地域の課題解決と交通弱者などの地域住民のニーズをとらえた「おでかけワゴン」事業について、市内で初めての試みに挑戦しています。

湘南地区では、路線バスやコミュニティバスの通っているエリアが限られているため、普段の買い物や病院への通院などで困っている住民がたくさんいます。

また、茅ヶ崎市に限らず少子高齢化の加速、核家族世帯の増加に加え、高齢化に伴う運転免許の返納により、近い将来、車の運転や自転車移動が困難になるのではないかと地域住民の不安の声があがっていました。

路線バスなどの公共交通による交通整備を望む声もありますが、事業の採算性や財政状況によって、導入には様々な課題があり、すぐに解決することは難しい状況になっています。

そこで、「自分たちのできることからはじめよう」と、湘南地区まちぢから協議会が中心となって、企業・事業者やNPO法人と連携を図りながら、乗用車を使った自主運行の仕組みを構築し、「おでかけワゴン」の取り組みをはじめました。

## 「おでかけワゴン」の事業概要

おでかけワゴンとは、湘南地区内の高齢者・妊婦等の買い物や通院などの外出を支援する事業です。

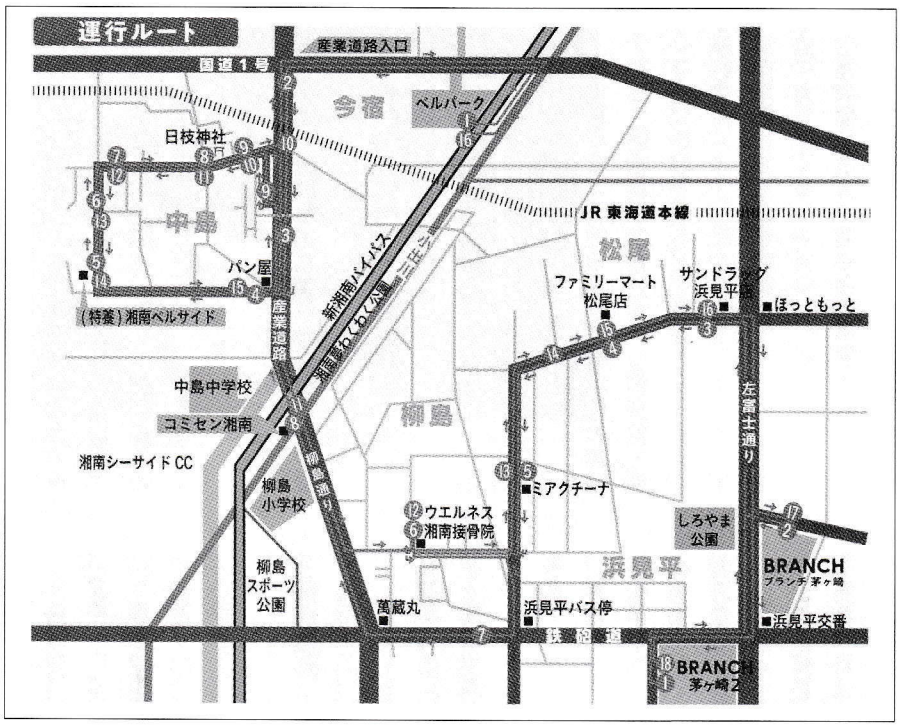
神奈川県の「共生社会仕組みづくり外出支援モデル事業」を活用したもので、交通空白地における公共交通手段を補完する新しい移動手段として、住民がお互いに支え合いながら「外出支援」を行う取り組みです。

社会福祉法人翔の会の車両提供を受け、ワゴン車を運行しています。

ワゴン車のドライバーは、地域のボランティアです。そこで、地域では、ワゴンの運転をするボランティアスタッフを育成するために、講習会を開催するなどの工夫をした結果、現在21名のボランティアドライバーが登録しています。地域の中に「できる時に、できることをする」という人を増やして、皆で支える仕組みづくりをしています。

令和2年2月25日からプレ運行が行われ、利用者の声を反映したり事例を積み上げたり運行ルートなどの運営方法の効果検証を実施しながら、令和3年4月より正式運行を迎えることとなりました。

毎週火曜日の午前中、社会福祉法人翔の会の車両を活用し、地域にある交通空白地から浜見平団地の商業施設BRANCH茅ヶ崎まで4便運行しています。さらに、毎月第2・第4土曜日には、地区内のマンションを巡回して、商業施設BRANCH茅ヶ崎まで送迎するマンション便を2便運行しています。



おでかけワゴンの定期運行ルート

運行当初は、毎月30名程度だった利用者が、直近の令和3年6月には、108名まで増加し、翔の会から提供いただいている車両1台では足りず、地域の有志の自家用車を併走することで利用者の皆様のニーズにお応えしている状況です。

本来であれば、定期ルートにある停留所を巡回しながら目的地まで運行する制度設計としていますが、利用者の増加と新型コロナ感染拡大防止の観点による乗車定員の制限による影響を受け、事前予約制として、定員を減員した暫定運用を行っています。

◆運行日

【中島定期運行便】毎週火曜日午前4便（行き2便・帰り2便）

【マンション便】毎月第2・第4土曜日午前2便（行き1便・帰り1便）

◆定　員

1便6名

※ただし、現在、新型コロナウイルス感染防止の観点から最大4名

◆料　金

実費相当分（ガソリン代）100円（1回につき）※一部区間は50円

◆利用方法

2021年1月から、新型コロナウイルス感染防止の観点から事前予約制

①定期便：前々日（日曜日）の16時までにコミセン湘南（※）へ予約

マンション便：前日（金曜日）の16時までにコミセン湘南へ予約

※コミセン湘南＝湘南地区まちぢから協議会が指定管理者として、管理運営をしている地域集会施設、コミュニティセンター湘南の略

②（初回時）必要事項を利用カードに記入し、利用登録

③乗りたい便に合わせて、停留所にて乗車

◆会　議

おでかけワゴン実行委員会を定期開催（月

に1回、令和3年度は2か月に1回）し、運行スタッフからの運行状況、利用者の声を共有。地元自治会長や関係者が出席し、関係機関との連絡調整、ニーズ把握のためのアンケート調査を実施。

◆スタッフ

運行スタッフは、全員ボランティア。主に近隣住民や湘南地区まちぢから協議会の委員などの有志で運行

運行スタッフ（約20名）※2021年7月現在

・運転員（ワゴンの運転）

・添乗員（運行時間の管理・乗降場所の記入、乗降のサポート、消毒・検温）

・運行管理者（予約の受付・緊急時の連絡対応、運営員や添乗員への連絡調整・シフト調整等）

◆運行主体

湘南地区まちぢから協議会

◆協　力

①社会福祉法人　翔の会（車両提供）

②大和リース株式会社・BRANCH茅ヶ崎（停留所、資金協力、エコバッグ等記念品提供）

③NPO法人　NPOサポートちがさき（運営サポート）

④特定非営利活動法人　まちづくりスポット茅ヶ崎（運営サポート）

⑤社会福祉法人　茅ヶ崎市社会福祉協議会（運営サポート）

⑥神奈川県福祉子どもみらい局共生推進本部室（事業支援・補助金）

⑦茅ヶ崎市総務部市民自治推進課（運営サポート）

## 地域活動の実務者である運行管理者の声

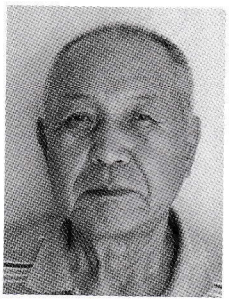
渡邉　又雄（わたなべ　またお）

茅ヶ崎市中島在住　79歳

まちぢから協議会の会計役員として、収支予算・決算を担当。

また、おでかけワゴンの運行管理者として、運転手や添乗員のシフトを管理するほか、運行実績として、乗車人数、車両の管理、事業会計など総合調整を担当しています。

渡邉さんは、「新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、ワゴンを中止することは簡単。だけれども、生活に必要なお買い物や通院のために外出しなければならない人がいるんです。不要不急でない外出を少しでも支援できるよう、コロナ禍の運行に細心の注意と感染防止対策を徹底し、運行ルートや乗員を分散させ、事前の予約制に運用を変更しながら運行しています。利用者さんの『ありがとう』という言葉を励みに頑張れています」とやりがいを感じています。



運行管理者　渡邉又雄 氏

利用者の声に寄り添いながら、おでかけワゴンを快適に利用していただけるように、様々な連絡調整を行い、日々の活動に尽力して、より良い地域を目指しています。

## 今後の展望や将来の課題

試行や利用者のニーズ、新型コロナウイルス感染症の拡大状況など様々な状況を踏まえて、運行してきました。

多くの地域住民の皆様にご利用をいただき、安定した運行ができるようになった半面、利用の拡大に伴う新たな課題が出てきています。

一つ目の課題は、利用者の増加と新型コロナウイルス感染拡大防止の観点による乗車定員の制限の影響を受け、定員を減員しています。そのため、提供をいただいている車両1台では、車両定員に対する利用者が上回ってしまい、地域の有志の私用車を併走している状況です。

現在、自動車販売店とのご縁があり、「お

でかけワゴン」の車両増のため、レンタカー等の車両提供に関して協議を重ねているところです。

二つ目の課題は、令和4年度以降の自走化です。

令和元年度から令和3年度まで神奈川県の共生社会仕組みづくり事業の補助金を活用しています。しかしながら、この補助金は、仕組みづくりを支援するもので、事業立ち上げから3年間の財政支援であるため、令和4年度以降の補助金の活用はできず、自主財源を中心とした自走化を目指す必要があります。

そこで、湘南地区まちぢから協議会は、湘南地区内の企業・事業者へ協力金の募集、車両ステッカー、回覧・チラシへの広告掲載の企画、さらには、おでかけワゴンは利用しないけれども、事業を応援したい方を取り込むサポーター制度を検討しており、賛助金の活用による仕組みづくりなどを計画しています。

また、活用可能な民間企業の基金制度や財団などの補助制度について調査研究を行い、活用可能な財源の確保を目指しています。

今後もおでかけワゴンを運行しながら、様々な課題が浮き彫りとなって困難な局面に直面することがあるかもしれませんが、地域が主体となって運用していることから、課題に即時対応することが可能な体制となっています。これまで培ってきた地域の団結力・行動力を活かして、湘南地区まちぢから協議会は、地域住民が主体となって、様々な地域団体と協力・連携を図りながら、持続可能な活動ができるよう取り組みを進めています。

この「おでかけワゴン」事業を通じて、様々な団体が顔の見える関係を構築することができました。一つの団体では、解決できなかった手法やアイデアを共有しながら、それぞれの役割を分担することによって、一つずつ課題の解決に向けたステップアップが可能となっています。

神奈川県内においても、5市10地区が神奈川県の「外出支援」を通じた共生社会の仕組みづくり事業を実施しており、この湘南地区の取り組みが、他地区や全国他市町村のモデルとなって外出支援を必要としている交通空白地の解決の一助となれば幸いです。

コロナ禍の状況下ではございますが、今回の「まちむら」にご掲載いただいたご縁をきっかけに、全国からの視察受け入れや意見交換を実施したいと考えていますので、湘南地区まちぢから協議会又はコミセン湘南までお気軽にご連絡ください。

社会福祉法人　翔の会から提供を受けている車両

湘南地区まちぢから協議会後藤会長をはじめとした運行スタッフ